

2月の学級づくり【中学校版】

2月は、「逃げる2月」と言われるほど、時間的に感覚的に短い月です。3年生は進路に真剣に向き合う時期、2年生は修学旅行準備や生徒会活動、1年生は3年生を送る会等に向けて準備をする時期です。学級全体で取り組む残り少ない日々を大切にしたいものです。



学級の新しい係活動を動かす工夫

1年生は、生徒会活動をモデルに

係活動は委員会活動の学級版だという意識を、先生がもちましょ。学級目標を意識して、計画、実践、評価、改善と、自治的な運営が継続できるように、定期的に係会を位置付けたり、互いの活動を認め合う場を設定したりします。

2年生は、生徒会活動と連携して

生徒会を引き継ぎ、学校の中心的な役割を果たすようになります。それとともに、係活動の時間の確保も難しくなります。そこで、学年全体で生徒会をつくるという意識に働きかけ、委員会と共に行える活動を増やします。

3年生は、卒業に向かって

不安と期待が入り交じった中だからこそ、学級で過ごす「今」を大事にしたいところです。「学級のために自分ができること」という視点で、小さな取組、日常的な取組を大事にしましょう。

受験への「不安」を「希望と勇気」へ

生まれて初めて経験する人生の進路選択の時期。生徒の不安や悩みは、日常生活にも影響してきます。中学生にとって、先輩の一言は影響力が大きく、精神面でも力強い支えになります。

そこで

<卒業生の力を借りる>

テーマ「受験の不安をどう乗り越えたか」

<取組例>

- ・進路講話として中学校に来て語ってもら
(一斉講義形式、グループ別座談会等々)
- ・手紙やメールで当時の思いを寄せてもらう
(学級通信に、帰りの学活で、参観日で)

<不安を乗り越える決意へ>

- ・先輩の話の感想発表(先輩へのお礼の手紙)
 - ・先輩の話を受け、今後の決意を作文にする等
- 初めてのお子さんをもつ保護者にも有効です。

朝の学活・帰りの学活のひと工夫

短学活は、連絡と先生の話だけだとマンネリ化しますが、工夫をすると学級づくりにつながります。その1例を紹介します。

- 1 今日目標と今日の振り返りを位置付ける。
日直や学級長が今日の目標を設定し、帰りの学活で振り返ってみましょう。その中で、友達の良さや頑張りを伝え合う場も大事です。
- 2 他学級の学活を参観する。
学年内で打合せ、担任や副担任の先生が他学級の学活に参加してみて、気付いたことを情報交換してみると、新たな発見があります。子どもたちにとっても新鮮です。
- 3 自己表現の場を設定する。
「今日の気になるニュース」「今日のことわざ」などテーマを決めて発表をする場を位置付けてみてはどうでしょうか。

支援が必要な子どもの「つまずき」を支援するポイント

～忘れることが多い～

「指示に対して注意を持続することが難しい生徒」には

指示を出す前に、これから指示を出すことを伝え注意を喚起してから、端的に話してみてもいい。

「言葉での指示を記憶しておくことが難しい生徒」には

期日や時刻、場所、持ち物などの要点のメモを取るよう指導するとともに、クラス全体でメモを取る時間を確保してみてもいい。

「整理整頓をすることが苦手な生徒」には

配布物や提出物を入れる専用のクリアファイルを用意し、家庭と連携して確認し合ってみてもいい。